

# エーザイ豊友会本庄支部通信

酷暑お見舞い申し上げます。皆様如何お過ごしでしょうか。

コロナの終息はなかなか見えず安心できない生活が続いています。更に遠いウクライナでは戦争も重なり避難生活が続く家族の姿に胸が痛みます。終戦時の東京の写真を見るような気がします。我が国に避難している方をせめて日本に在る間だけでも安心させたいものです。

今回は会員動向、会計報告、懐かしい写真、人類や地球を存続させる為に今の人々が努力しなければならぬ活動（SDGs）について渡部良一さんに説明をして頂きます。今回支部間交流の試みとして中部支部・横堀隆一さんの素晴らしい写真を紹介します。「エーザイ（ECL）と渋沢栄一」は武市匡豊（たけいちまさとよ）氏を見て最終回としました。

## 4、支部交流の一つの形

豊友会では3年前に支部交流を図る計画がありました。

しかし、コロナ禍で実行出来ません。そこで、一方的な交流場面ですが考えてみました。

\*本庄工場と川島工場は営業前線を支える生産基地でした。

特に本庄工場経験者は技術、知識を持って川島工場に異動し色々、教えてくれました。

両工場交流は人的、技術で盛んになりました。今回、伊勢崎出身で1963（昭和38）年に本庄工場に入社、その後川島工場に転勤し合成関係で活躍した横堀隆一さんの日頃を紹介します。

横堀さんは岐阜で寮母さんの娘さんと結婚して家庭を築き第二の故郷の岐阜にいます。

退職後は好きだった野鳥の撮影にのめり込み、野鳥が瞬間に見せる生きる姿をプロ並みのカメラ技術で撮り続けています。今回はその横堀さんの作品です。



### エナガ（柄長）の子ども達

雑木林の枝先から枝先へ群れで移動

九州から本州の落葉樹林に生息する。

樹皮などにいる小さな虫を探して食べる。

シジュウカラの仲間。



### 大鷹の子育て

翼開張 105～130cm。頭から背面は灰黒色で、

眼の上に白い眉線がある。平地や山地の

に生息し、巧みに飛び回って小鳥類、キジ類

ウサギなどを追いかけて狩る。

ミサゴ（鵜）（三交通りの飲み屋ではありません）

ミサゴは主に魚を食べるタカ科の鳥です。

アユツリシーズンが終わって川に残った「落ち鮎」やコイなどを狙いやってきます。この写真も足で魚を掴んでいます。



\*横堀さんの写真を要請したら娘さんが昔描いた似顔絵で勘弁して下さいとのこと。

更に横堀さんは野鳥の写真撮影について次のように語ってくれました。

警戒心の強いミサゴや大鷹は人間より車の方が警戒心は薄いので車で近づき車内から撮影します。鳥の撮影は「餌をとる」場所や「営巣」する場所を探して観察し、行動パターンを知り、気付きづらい位置で撮影し易い場所を決めます。観察には8倍～10倍程度の双眼鏡が必要です

ミサゴは川や池や水の流れが緩やかで水面に魚が浮いて来やすい場所で自分の縄張りを持ちほぼ朝夕の決まった時刻に来るその時刻より少し早く行き準備、時には迷彩テントを利用します。

エナガの卵や雛の外敵は主にカラス、蛇、その為人が多く外敵が少ない公園等で巣を作ります。巣を探したら観察します。雛の食欲が出ると餌の運ぶ親鳥の頻度が多くなり、巣立ちが近いです。巣立して小枝にいる雛に親鳥が青虫等を運んでくる。雛は親に集中して来て団子の様になった場面です。シジュウカラの群れの中にも混ざっていますが分類はスズメエナガ科のようです。

大鷹の抱卵中は刺激を与えないように遠くで観察し、雛が誕生すると子育て放棄の可能性が少なくなるので一定程度近くで撮影出来ます。餌は鳩クラスの比較的に大きい鳥を餌にします。

小鳥もそれを知っていて大鷹の直ぐ近くまで平気で来ます。

\*今回は退職後、野鳥の自然の姿、珍しい瞬間を撮影し我々を楽しませてくれる横堀隆一さんを紹介しました。

以上「本庄支部通信 8号」の一部を紹介しました。その他の記事に興味のある方は下記のメールアドレスで要求して下さいメール便でお送りします。

[y-yoshida3@catnet.jp](mailto:y-yoshida3@catnet.jp)

吉田まで

最後に懐かしい写真を一枚

